



都築 龍太さん

つづきょうた 奈良県出身。国見高校卒業後、1997年ガンバ大阪に入団。2001年、日本代表に初選出。2003年、浦和レッズに移籍。Jリーグ優勝、天皇杯2連覇、AFCチャンピオンズリーグ優勝、FIFAクラブワールドカップ3位入賞など、数々のタイトル獲得に貢献。2011年現役を引退。

子どもたちの笑顔と夢先生の想いとの出会い

サッカーを始めたのは小学2年生

小学2年生の時、友達と昼休みにサッカーをして遊んでいた。遊びの延長で始めたのがきっかけ。放課後にサッカーをしようとしたら、先生から「放課後は、サッカークラブが使うから、ここでサッカーをしてはだめだ」と言われ、友達と「じゃあみんなでサッカークラブに入ろう」と、クラブに入ることにしました。真剣にサッカーをやるうと思ったのは、小学5年生の時。県大会に初めて出場し

プロサッカー選手になりたい

中学2年生の時にJリーグができました。テレビに映る選手たちを見て、「プロサッカー選手になりたい」という夢を持つようになりました。夢を実現するために考えたのは、全国大会で何度も優勝している「国見高校」に入ること。全国大会で活

躍すれば、プロになれるのではと考えました。しかし、この高校に行くためには、2つの問題を解決しなければなりません。1つ目の問題は、この高校が長崎県にあり、奈良県から通うことはできないので、寮生活をしなければならぬこと。中学生の時は、親や先生からほめられたことがなく、怒られてばかりだったので、親に言っても絶対にだめだと思っていました。それでも、夢をあきらめることができなかつたので、「国見高校に入つて、プロサッカー選手になりたい」と親に話したら、すぐに「行ってこい」と言われました。それは、僕の夢を知っていてくれたから。親も、友達

も、先生も、みんな僕の夢を応援してくれました。みんなも夢を持って、その夢を家族や友達に話せる人になってください。その夢をみんなが応援してくれるはず。2つ目の問題は受験です。勉強が大嫌いでしたが、中学3年生の夏から勉強をスタートさせました。嫌いなことをやるのは、とても大変でつらかつたのですが、「プロサッカー選手になりたい」という目標があつたので、必死に頑張りました。そして、国見高校に入ることができましたが、その時、とても後悔したことがあります。それは、日々の授業を真剣に聞いていれば、こんなに大変な思いをするのはなかつたということです。僕のように後悔しないように、日々の授業を真剣に聞いてほしいと思います。

あきらめない心

高校2年生までは、同級生に17歳以下の日本代表選手がいたので、試合に出ることができませんでした。練習もきつくと、試合にも出られなかつたので、違う高校に行くことを考えたこともありました。このまま地元に戻つたら格好悪いという気持ちと、努力してライバルを抜きたいという気持ちで、誰も見ていなくても努力して練習しました。人の見ていないところで、一人だけで努力することはとても大変でしたが、私には夢があつたので、一生懸命努力した結果、高校3年生の時に、レギュラーになることができました。努力は裏切らない。全国大会で優勝することはできませんでしたが、私のことをずっとみてくれた方がいて、「ガンバ大阪に来ないか」と声を掛けてくれて、「プロサッカー選手になりたい」という夢をかなえることができました。

夢を支える人たち

私はスポーツを通じていろいろな経験をしてきました。楽しかったことやつらかつたことも、スポーツがあつたから経験できたこと。今の夢は、この経験を子どもたちに伝えるための環境づくりを行うため、政治家になりたいと思っています。今、その夢をかなえるため、日々、勉強しています。夢を持つことやかなえる可能性は誰にでもあります。周りの人に夢を知ってもらうのは大切なこと。出会う人が夢を応援してくれるはず。友達の夢も応援できる人になってください。



JFAこころのプロジェクト・夢の教室

～元サッカー日本代表の都築龍太さんが福岡小にやって来た～

仲間と協力する大切さ

6月28日、元サッカー日本代表GKの都築龍太さんが福岡小学校を訪れ、子どもたちの健全育成を目指す公益財団法人日本サッカー協会の「こころのプロジェクト・夢の教室」が5年生50人を対象に開催されました。

前半は、体育館での「ゲームの時間」。2グループに分かれて、チームごとに輪を作り、鬼ごっこをしたり、ボールが宙に放たれた間だけ前進できる「だるまさんが転んだ」などを行いました。

なかなかゴールできずに、途中、どうしたらゴールができるか都築さんを囲んで作戦会議を行うこともしばしば。児童たちは「ボールをよく見よう」「走らないでゆっくり歩きながら確実に進もう」など声を掛け合い、5度目の挑戦で無事ゴールしました。ルールを守り、仲間と協力してゲームをクリアする喜びを楽しんだ児童たち。体育館は児童たちの笑顔で満ちあふれていました。

夢をかなえるために

後半は、教室での「トークの時間」。都築先生がこれまでの



体験を話し、児童とともに夢について語り合いました。都築先生は児童に質問を投げかけながら話を進め、児童も熱心に耳を傾けていました。「夢の教室」の最後は、参加した児童全員が「夢シート」に「未来の自分への夢」や「その夢をかなえるために努力すること」などを書いて発表する時間。児童たちは目を輝かせて、「未来の自分への夢」などを書き入っていました。

白石市での「JFAこころのプロジェクト・夢の教室」は、財団法人上廣倫理財団が子どもたちの生涯学習の支援を目的とした事業の一環として、その経費を負担し実現した。児童たちは、「夢を持つことの大切さ」「フェアプレーの精神」「仲間と協力することの大切さ」などを学び、子どもたちの笑顔と夢先生の想いが出会って、新しい夢が生まれる。そんな、素敵な時間を過ごしていました。

